



第9回

五村別院（五村御坊）

（滋賀県長浜市五村 150）

鳥越一向一揆歴史館友の会／北陸城郭プロジェクト 塩谷忠士

友の会の世話人をしております塩谷です。今回は長浜市五村の五村別院を紹介します。友の会県外研修で五村別院を訪れました。別院とは地域ごとに設けられた本山直属の寺院で、真宗大谷派では全国に52カ寺、海外に3カ寺を数えます。湖北地域には真宗大谷派の門徒が多く、長浜別院大通寺、五村別院、赤野井別院の3カ寺があります。

大坂本願寺と織田信長の10年に及んだ対立は、天正8年（1580）朝廷の介入による和睦に応じて、第11世顕如は紀伊雑賀の鷲森御坊に退去するが、その長子教如が徹底抗戦を主張し大坂本願寺に半年間籠城し続けました。

徳川宗家16代家達寄進灯籠がある教如上人御廟文禄元年（1592）顕如上人の死により教如が本願寺第12世を継承しました。しかし、母如春尼と豊臣秀吉の意向により弟の准如が後継となり、教如上人は隠居を命じられました。放浪する教如上人に深く帰依する湖北の門徒衆は、慶長2年（1597）五村の地に坊地を寄進し、大村刑部らが多賀山十念寺跡に一字を建立して教如上人を迎えました。これが教如上人開基となる五村道場の草創です。

慶長7年（1602）徳川家康から京都六条烏丸の地に寺地の寄進を受けて真宗本廟（通称・東本願寺）を建立し、教如上人は京都に本山を移しました。これにより本願寺は東西分立し、系図としては本願寺第11世顕如の後、本願寺派第12世准如、真宗大谷派第12代教如と続くことになりました。

湖北の地で浄土真宗の布教が始まったのは第3世覚如上人の頃で、第10世証如上人の頃までに湖北十ヶ寺とよばれる有力寺院を中心に大きな勢力となっていました。元龜2年（1571）湖北門徒の要請により第8世顕如は湖北三郡に檄を飛ばし、朝倉義景と浅井長政との三者連合によって近江に侵攻する織田信長に対抗しようとして大勢の犠牲を出しました（これを湖北一揆という）。この時すでに大坂本願寺での10年戦争が始まっていて、湖北の門徒衆は顕如上人の下でともに戦う教如上人を見知っており、先の一揆で敗れた秀吉に隠居させられた教如上人を思い結束して五村にお迎えしたのであろう。

慶長5年（1600）徳川家康は、関ヶ原合戦の勝利後に日下善介玄昌を普請奉行として本堂を建てました。この五村御坊は「六条御殿懸所」（六条御殿とは教如上人の隠居所のあった龍谷山本願寺（通称・西本願寺）のこと）と呼ばれ、慶長7年の本山移転後は「元の本山」とも呼ばれました。境内には教如上人の銅像やご遺骨を納めた御廟があり、本堂内には教如上人の寿像（生前の御影）が祀られています。本堂と表門は平成10年（1998）に国の重要文化財に指定されました。

参考資料
五村別院
パンフレット

「教如流転」
（宮部一三著）
五村別院頒布本

東本願寺
ホームページの
別院一覧



国重要文化財・五村別院表門



教如上人銅像と国重要文化財・五村別院本堂